

【森林保全部門】

佐田山保護林のヤッコソウ保全とナラ枯れ対策の取組 ～国有林と国立公園の連携～

四万十森林管理署 浮鞭森林事務所 森林官補 藤村 良汰

四万十森林管理署 業務グループ係員 岸本 悠平

環境省 中国四国地方環境事務所 四国事務所 土佐清水自然保護官事務所
係員 鵜田 奈那

1 課題を取り上げた背景

佐田山保護林は、高知県西部足摺岬の南部に位置する、高齢級のシイ・カシが優先する天然広葉樹林であり、高知県の絶滅危惧種であるヤッコソウ（図1：シイ・カシの根に寄生する寄生植物）の群生地になっています。

四万十森林管理署では、ヤッコソウの保全を目的として、防護柵設置等に取り組んできましたが、ヤッコソウの生態については未だ不明な点が多くあります。また、ヤッコソウ宿主木であるスダジイやアラカシには、ナラ枯れの被害も報告されています。さらに、当保護林は足摺宇和海国立公園内に位置していますが、これまで環境省との連携した、ヤッコソウ保全の取組はほとんどありませんでした。

そこで、環境省と連携してヤッコソウの生育状況を把握し、ナラ枯れとの関係を含めた生態について考察することを目的に各種取組を実施しました。



（図1：ヤッコソウ）

2 取組の経過

調査地：佐田山ヤッコソウ（シイ遺伝資源）希少個体群保護林

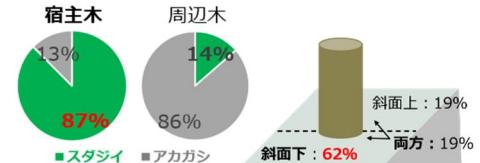
（1）ヤッコソウの生態に関する調査

①ヤッコソウの生育状況調査：ヤッコソウの生息場所・個体数・生育環境（斜面の上部 or 下部・傾斜方向・生息範囲）及び、ヤッコソウ宿主木、周辺木の胸高直径・樹高・穿孔密度（100 cm²、3箇所）を測定

②カシノナガキクイムシ捕獲調査：ヤッコソウ宿主木の一部に粘着シートを貼り付け、カシノナガキクイムシの脱出数と飛来数を測定

（2）環境省との連携

共同研究・共同プロモーション・ヤッコソウの保全や遊歩道周辺の環境整備のための情報共有等を実施



3 実行結果

（1）ヤッコソウの生態について

保護林内の11箇所、合計1452個体のヤッコソウが観測されました。ヤッコソウはスダジイへの寄生が多く、生息場所については斜面下部や、南向きの斜面を好む傾向がありました（図2、3）。

そして、ヤッコソウ宿主木は周辺木と比べて、胸高直径・樹高・穿孔密度が大きい傾向がありました。また、宿主木の胸高直径・樹高が大きいほどヤッコソウ個体数が多い傾向がありましたが、カシノナガキクイムシの捕獲数・穿孔密度とヤッコソウ個体数の間には明確な関係が見られませんでした。

（2）環境省との連携について

環境省と連携して各種調査を行い、研究成果をまとめ、遊歩道の整備や、危険木の位置・ヤッコソウの生息データ等の共有を行いました（図4）。



（図4：共同研究の様子）

4 考察

上述の傾向がみられたのは、根が地表に現れやすく、根系の発達が良好な樹木にヤッコソウの寄生が集中したからだと考えました。今後は環境省HP等への研究成果の掲載や、巡視予定を共有するとともに、大学への研究場所の提供や、共同調査も継続して実施し、各機関と連携して保護林の価値を高めていきたいと考えています。